令和元年度　佐賀県立唐津工業高等学校　学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標	
21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。 （学校経営ビジョン） 「ものづくりによる人づくり」「部活動による人づくり」を柱として生徒が入学して良かった、保護者が入学させて良かったと思う学校づくり	① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応 ② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実 ③ 部活動の入部率・定着率の向上と活動の活性化 ④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着	⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実 ⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上 ⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦

達成度　A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	・いじめ問題の早期発見のためのアンケートを学期に１回実施する ・いじめ問題が発生しないための環境づくりと啓発に取り組む	B	・いじめアンケートを学期に１回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。 ・いじめ問題等が発生しないよう、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ・ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。	1、2学期のいじめアンケートの実施時期は適当であったが、いじめ問題の早期発見、防止につながらない事案が発生した。また、いじめ覚知後の対応に苦慮した。3学期は学校の休校もあり、実施できなかった。 学年団の協力により、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施することはできた。また、ヒューマントレーニングのなかで他人を思いやる心情について考える時間を持つことができたことは大変意義のある取り組みだったと思う。	アンケートの実施時に限らず、普段から生徒の様子により目を配ることによって、いじめの早期発見、防止に努める。そのために生徒への声かけ等、日常的なコミュニケーションをより深めていくことが重要である。 いじめ覚知後の対応においてチーム力を発揮するためにも、1学期の段階でに職員研修を実施したい。 ヒューマントレーニングにおいては、思いやりの心や想像力を深めるためにも有効であると考えるため、来年度もぜひ続けていきたい。

② ものづくりによる「地域連携・貢献」の充実

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	・「ものづくり」をとおして地域に貢献する。	A	・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 ・地域から依頼された物を製作する。 ・地元のイベントでものづくり体験教室を行いものづくりの楽しさをＰＲする。	各科とも課題研究のテーマに必ず地域貢献を題材にした研究を取り入れ、ごみステーションやベンチを地元地域や小中学校へ寄贈した。鬼塚ふれあいまつり、北波多ふれあいフェスタでは、全科とも製作体験教室を行った。製作依頼が増え、直ぐには対応できないケースもあった。このような取組は、工業高校の存在感を示している。	学校ＰＲや生徒の意欲の醸成の面からも、今後も、ものづくりを活かした地域貢献活動には積極的に取り組んでいきたい。　地域との連携・地域への貢献は、専門高校として学校活性化の中心的な取組である。このような取組が地域や小中学生の保護者に理解され、入学希望者の増加に繋がっていくと確信している。

③ 部活動の入部率・定着率の向上と活動の活性化

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	・部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	A	・入学式、各集会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を督励し、１年生の入部率を向上させる。 ・特に１年生については３日間の体験入部、および１学期間全員入部を経て、部活動の魅力を味あわせ、充実した学校生活に役立たせる。 ・部活動生の活動してきた実績は、その状況に応じて、個人の進路実現に大きく寄与することがあってしかるべきであるので、推薦会議等の場でこれまで以上にアピール要素にしていくことを生徒へアナウンスしていく。	生徒全体の部活動入部率は８７パーセントで、1年生の入部率は９５パーセントであった。２，３年生の入部率は変化がほとんどなかったが、1年生については大きな成果があった。 継続して取り組み、部活動がより活性化するようにしていきたい。	生徒の部活動への意識は毎年向上しているように思える。部活動の意義などと合わせて、活動発表や活動紹介の機会を増やし、壮行会、報告会などでより活動の成果を発信するようにしていきたい。

④ 規範意識の高揚と基本的生活習慣の定着

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	A	・年１３回、１０分間の「ヒューマントレーニング」を定期的に実施し、テーマを生徒に熟考させる。 ・予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、感じたままを記入して提出させ、担任・教務などで検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。	本校独自の取り組みであるヒューマントレーニングは生徒に定着してきた。SNSの利用に関するものや公共の場など本校に関する問題点などをテーマとし、マナーやルールについて考えさせるような質問を実施している。また、代表的な意見は掲などを通して紹介され、他者の意見に触れることも良い刺激となっている。次年度は学校HPに掲載するなどの多くの人の目に触れるような取り組みを行いたい。	生徒の規範意識や道徳的心は、毎年少しずつ向上しているように思える。また、生徒の優しい気持ちが大きくなっているようである。来年度も今年度と同様に「ヒューマントレーニング」を年１３回程度計画している。さらに生徒へのフィードバックを検討し、日頃の授業やＨＲ、部活動など色々な場面で生かせるような取り組みを行う。合わせて学校HPへの掲載を行う。
		ボランティア活動への積極的参加と、自発的あいさつの推進	・「地域の美化に貢献する学校」を目指す。各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数１００名を目指す。 ・校内でのあいさつだけでなく、登下校時の唐工坂での自動車に対する会釈を普及させる。	A	・週に２回、部活動未入部生による学校周辺の放課後清掃活動を実施する。 ・唐津特別支援学校への行事参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。 ・生徒会による定期的な放送、登下校時の立ち番、生徒総会などで挨拶について呼びかける。	部活動未入部生徒の放課後ボランティアについては、生徒も積極的に参加し実施することができた。また、ボランティア活動についても毎回生徒の参加希望が有った。	ボランティア活動については、毎回参加希望者があるので、より多くの生徒が興味を持つように紹介していきたい。
	●学力向上	授業態度の改善	・授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。	A	・各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその都度、改善を促していく。 ・学習評価において、授業態度を大幅に重視することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。	今年度もシラバスを生徒用タブレットPCに配信し、いつでも、どこでも確認でき学習評価について周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図ったつもりではあったが、生徒への浸透が浅かったように思える。 「学習状況記入簿」の活用は、無かったが、教科によっては目につく言動が一部あった。次年度は「学習状況記入簿」を活用していきたい。以前より生徒の学習態度がよい方向へ向かっている。	ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるが、来年度もにシラバスを生徒用タブレットPCに配信し、学習評価について周知徹底させていきたい。また、「学習状況記入簿」を活用し、生徒指導や保護者面談等の資料として活用できるように取り組んでいきたい。授業態度については、良好な生徒が多くなってきた。これまで数年、授業態度を大幅に重視してきたが見直しを図り、生徒の学力向上に力を入れていきたい。
	○生徒指導	規範意識の向上	・地域社会におけるポイ捨て防止 ・自転車乗車マナー向上 ・公共機関利用モラル・マナー向上 ・ＳＮＳ利用モラル・マナー向上	B	・粘り強い呼びかけ ・見逃さない対応 ・講話などの活用 ・生徒同士の指導	一部の生徒ではあるが、ポイ捨てや自転車乗車マナーについては、意識が低い者もいる。また、ＳＮＳの利用も同様で、ネットパトロールを通じて不適切使用について連絡を受けることも多かった。	各クラス、各科、各学年を含めありとあらゆる場面、また手段を通じて生徒へ訴え続けることによって規範意識を高め、生徒自らが的確な判断をできるように努める。

⑤ 全生徒の進路実現のための進路指導の充実

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	進路希望の実現	・基礎学力・コミュニケーション能力を向上させ、進路実現１００％を達成する ・１年次から適切な進路情報を提供し、生徒が自らの将来について考え、進路希望を実現するため、主体的に進路を選択できるようにする。	A	・授業を大切にし、家庭学習の習慣を身に付けさせる。生徒の就職・進学の希望の実現を目指して基礎学力の向上を図る。 ・進路選択のための適切な情報を提供し、生徒の主体的な進路決定の手助けとする。 ・会社訪問を行い、求人会社の情報を希望する生徒にタイムリーに提供する。 ・インターンシップ事業を充実させ、将来の進路選択の幅をひろげる。	本年度も進路決定率１００％が達成できた。１回目の就職試験では内定率95.4%であった。就職者の37.5%（51名）が県内に就職した。進学者は大学に7名、専門学校等に17名（内4名は就職進学）が合格した。日頃より生徒・保護者に情報提供を心がけ、学年団や工業科と連携を図り、進路指導を進めることができた。特に県内企業への訪問を積極的に行い情報収集と提供ができた。	次年度は進学希望者に対する選択科目の見直しや進学補習の効果的な方法について検討したい。また、県内企業の見学会、紹介会を通して県内企業の周知と希望者の増加を図りたい。
	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	・生徒に確かな基礎学力を身につけさせる。 ・進学、就職試験の合格率１００％を達成する。 ・進路選択のミスマッチが発生しないよう、個々に応じた適切な進路指導を行う。	A	・「数学会」は、数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日２名ずつの輪番にて１学期間中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 ・進学、就職試験の合格率100%を達成するため、日ごろの授業の充実や小テストの実施をとおして基礎学力の向上を図る。	学力の向上の為に行っている「数学会」は、今年度も期間中休む生徒も無く、達成感も得られそれなりの成果が出たように思う。該当生徒のその後の数学の成績を見ると、効果が現れている。特に、数学の小テストでは他の生徒と変わらないくらいの点数をとっている。また、例年少しずつではあるが指導対象となる新入生が減っていることを考えると、生徒の意識も変わってきているように感じる。	今後も達成感を得られ、数学の力がついたことが実感できるように問題作成を考えていきたい。また、生徒がその他の教科にも興味関心を持って学習に取り組むことや学習の習慣をつけることも重要である。現在一部の生徒に対して「数学会」を行っているが、1年生の全生徒に放課後、学習者用PCを使い数学以外の教科も含め、短時間で継続的に行えるような取り組みを検討したい。

⑥ 清掃活動の充実と校内美化の向上							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓発。	・職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。 ・ゴミの減量化と資源物（紙類）の回収を実施する。	B	・清掃の時間は全生徒・全職員がともに掃除に取り組み，生活環境の美化につとめ，進んで奉仕的活動に取り組む意識を持つ。 ・ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。 ・環境問題についてＨＲ活動を通して生徒の意識の啓発をはかる。	４月当初、１年間の掃除区域割を作成、それぞれの担当教員の指導のもと、日々の清掃に取り組んだ。また、４月には開校記念鐃山登山時の清掃活動、７月には学校周辺の清掃活動に取り組んだ。 各学年・各クラスごとに一週間の輪番でゴミ分別担当生徒を集積場所に配置し、ゴミ分別の意識を高めた。 ７月に１学年を対象に、ゴミ分別に関するＨＲ活動（講話）を実施した。	今後も掃除と校内美化の徹底を図っていきたい。具体的には、月別の目標の設定、週ごとの重点区域、重点箇所のアナウンスなどについて検討していきたい。また、ゴミ集積場所の職員担当の輪番制や職員室・準備室のゴミの分別徹底など、教職員自らの意識を高める取り組みも進めたい。
	○安全教育	施設の安全点検と実習等の安全作業	・安全点検を実施し、必要な対策を行う。 ・実習棟の整理･整頓と安全な実習運営。	B	・毎月、各点検箇所の責任者が安全点検を実施し、報告する。 ・実習や課題研究では安全作業と適切な服装での作業を徹底する。	各担当者の協力を得て，毎月の安全点検が行った。安全点検の結果の集約・報告し改善につなげた。	安全点検の結果の集約や報告を遅滞なく進め、結果については、すぐに閲覧できるようにしていきたい。

⑦ 資格取得やコンテストへの積極的な挑戦							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
活動 教育	○資格取得	資格取得の推進と各種コンテストへの参加の推奨	・資格試験の合格率を前年度より１０％アップする。 ・ジュニアマイスター関連のコンテストへの参加を勧奨する。	B	・「資格取得ハンドブック」を有効に活用し、学年で最低２つ以上の資格を取得させる。 ・資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。 ・各科を通して、生徒にコンテストの紹介をする。	「資格取得ハンドブック」は生徒や保護者にとって有効な情報源になっている。そのため、受験者は例年同様に多かった。一部の資格試験では、合格者数の低迷もあるが、建築科では、県建築士会主催の「建築設計競技」において県知事賞、金賞銀賞銅賞を２年連続受賞する活躍であった。	資格取得に対して意識の高揚させることは進路指導の面からも重要である。 合格率を上げるためには生徒の学習方法の改善指導が重要な課題である。 奨励する資格の変更、指導方法の工夫など、指導体制の見直しも含め検討したい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目（あれば記入）							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	達成度	具体的方策	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
活動 教育	●健康・体つくり	健康の自己管理能力向上の推進	・保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	A	・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 ・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。	年度当初の健康調査等により、生徒の健康管理に努め、保健指導を継続することで自己管理の意識づけにつながった。定期検診後には、それぞれの結果を基に受診勧告を出したが、歯科以外は前年度より受診率が向上した。歯科については３年生の受診率が特に低下したので、就職など進路決定も控えているという観点からも受診率向上の取り組みが必要である。	定期健診後の受診率の向上を図る。特に３年生の歯科、視力については就職や運転免許を取得するまえに、夏季休業中など時間のあるうちに治療を済ませておくことを呼びかけ、引き続き健診後の行動変容に繋げていく必要がある。
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	・保護者や生徒の重点目標の周知度を８０％以上にする。 ・学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を８０％以上にする。	B	・保護者に対しては、ＰＴＡ総会、唐工ニュースで周知を図る。 ・重点目標を中央廊下に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 ・学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。	重点目標の周知についてはPTA総会やPTA役員会等で周知を図った。生徒に対しても全校集会や各学校行事など、機会をとらえ、周知している。	今後も学校行事や学校からの唐工ニュース等の配布資料やHPを積極的に活用し、学校の取り組みについて、一人でも多くの生徒や保護者に伝わるよう、努めていきたい。
		地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	・高校入試志願率の向上 （一般入試で定員の１．２倍以上を確保）	B	・唐工ニュースやメディアなどを通じて、活躍する生徒の情報を地域へ積極的に発信する。 ・体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等では学校PR用の動画を用い、生徒に分かりやすい説明を行う。	HPの更新が昨年度より回数が減ったが、本校生徒の活動の様子を発信した。 志願倍率は1．06（昨年度1．24） 中学校訪問も積極的に行った。	HP担当者と協力し、HPの更新を積極的に実施したい。今年度の取り組みを継続するだけでなく、さらに地元企業や周辺小中学校、地域住民とのかかわりを積極的に行い、志願者増につなげたい。また、次年度は中学校向けに出前授業を計画したい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・全分掌について業務内容を見直し、効率的な業務遂行を工夫する。	B	・分掌ごとに業務改善案を立案し、取組状況について学期毎に主任より管理職へ報告をする。	全校務分掌で取り組んだ。また、各個人でも効率の良い業務遂行を心掛けた。 全体的な残業時間は昨年度よりも減っているが、目立った業務削減はみられない。	他県や他校の取り組み事例を検証し、本校で取り組めるものがあれば可能な限り導入し、業務削減、職員の負担軽減に努めたい。 次年度から、長時間労働に関する月と年に関する上限が定められる。明確な業務の見直しを検討しなければいけない。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目